

令和元年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 令和元年7月1日(月) 午後1時30分～午後3時30分

2 場所 青梅市役所 403会議室

3 出席委員

森田委員、加藤委員、小澤委員、茂原委員、徳武委員

4 議事

協議事項

(1) 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

＜策定方針と今年度のスケジュール＞

(2) 青梅市人口ビジョンについて

ア 青梅市人口ビジョンの検証

イ 青梅市人口ビジョンの今後の方向性について

(3) 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

ア 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

イ 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の方向性について

(配布資料)

青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

資料1 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針

資料2-1 青梅市人口ビジョンの検証について

資料2-2 人口動態に関する比較表

資料3-1 現状分析の整理

資料3-2 目指すべき方向性

資料4 各種施策の実施状況等

資料5 政策パッケージについて

資料6 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

資料7 基本目標等について

・平成30年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録概要版(委員のみ)

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>令和元年度の第1回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>先ほど副市長からの御挨拶にあったとおり、今年度は青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画最終年度となる。</p> <p>この計画は平成27年10月に策定され、策定から4年余りが経った。</p> <p>この4年の間でも定着してきた新技術や新たな考え方が生まれている。</p> <p>今テレビを見ていると、ドローンを使ったきれいな空撮があたり前のように出ている。多摩川フォーラムでも使われている。4年前は流行語大賞のトップ10にドローンが入っていたくらいで当時はまだ目新しいものだった。</p> <p>また、最近はキャッシュレス決済が急速に進んでいる。PayPay(ペイペイ)やメルペイや、私どもの業界ではオリガミペイというものもある。スマートホンを使ったQRコード決済が若い人を中心に広がってきている。QRコード決済というものは、4年前はほぼ無かった手法だった。</p> <p>このようなことから、この4年の間でも時代の変化を感じる。</p> <p>民間も行政も、時代の変化に伴い、一步先を読んで打つ手を考えていかなければいけないということだが、そういったことから青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進では皆さんから御意見を頂戴している。統計を見ると人口減少の大きな流れがあるが、これを止めるのは難しい。</p> <p>このような中、我々の役割としては、青梅市が進める総合戦略の検証や、次期総合戦略策定に関して、皆様が各分野で培われた知見を活用して、意見を発していくということになる。</p> <p>是非とも、積極的な発言をお願いしたい。</p> <p>それでは、次第に従い進めさせていただく。</p>
会長	<p>2 協議事項</p> <p>本日の進め方については、次第の2については、市の決定事項について御説明をしていただき、委員の皆様から御質問があればお願いしたい。3と4については、資料をもとに市から説明をいただいた後、各委員から御発言をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(1) 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について (次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、資料1を用いて説明)</p>
会長	<p>「次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定」について事務局から説明があった。御質問等あればお願いしたい。</p>

委員	<p>子育て世代との懇談会は貴重な機会と思われるが、子育てをしているお母さんたちは中々出てこられないので、SNSを利用して民意を取り入れたらよいのではないか。</p> <p>子育て世代を応援している年配の方々や、保育関係者の意見を募る機会もあってよいと思う。</p>
事務局	SNSの利用も含め、色々な方向から市民の声を集めていきたい。
子ども家庭支援課長	今年度「子ども子育て支援事業計画」を策定予定であり、昨年度ニーズ調査を行った。この意見も加味して、総合戦略に反映していきたい。
委員	娘が民生委員の方に相談することがあるが、ママ友が近くにいない。今発言があったSNSは非常にいいと思う。
委員	<p>子育て世代や事業者との懇談会はいい機会と思う。</p> <p>参加者が集まるよう、ある程度団体等に参加を要請するなど、工夫をして開催したらいいと思う。</p> <p>周知の仕方がとても大事だと思う。</p>
会長	子育て世代や事業者と市長との懇談会が今月行う予定となっているが、周知方法はどうか。
企画政策課長	<p>広報紙、ホームページ、ツイッターを活用して周知する。また、会場が子育て支援センターで行うので、そちらでチラシの配布やポスター掲示を行う。</p> <p>事業者向けについては、青梅商工会議所に周知に御協力いただき、多くの方へ御参加いただけるよう努力している。</p>
子ども家庭支援課長	子育てアプリにおいても、子育て世代向け懇談会のお知らせをしている。
会長	是非周知に努めていただきたい。
事務局 会長	<p>(2)ア 青梅市人口ビジョンの検証 (青梅市人口ビジョンの検証について、資料2-1、2-2を用いて説明)</p> <p>「青梅市人口ビジョンの検証」について事務局から説明があった。御発言をお願いしたい。</p>
委員	人口減に歯止めがかかっていないというのが率直な印象。今後の5年間、一段

	と対策が必要では。
委員	転出した方の理由は控えているか。
事務局	現行の青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定時にアンケートを行っている。仕事の都合が最も多い理由となっている。
委員	その理由だと、中々引き止める策が難しい。
会長	資料2-2においては、推計と実数がかかなり重なっている。市として施策を打って努力しているが、中々成果を出すのが難しい。
委員	資料2-2の北部の高齢人口が極端に減っている理由に、特別養護老人ホーム2施設の移転ということで理由はわかったが、資料2-1の3ページ5歳階級別の転入・転出状況では、85歳以上は転入が増えている要因はあるか。
事務局	青梅市の場合は高齢になると転入が多い傾向だが、特別養護老人ホーム等が多く、市外から入所される方の人数が転入超過につながっていると考えられる。
委員	特別養護老人ホームのような施設が青梅市は多いということか。
事務局	そのとおり。
委員	<p>そういう施設があることによって、そこで働く人がこちらに移ってくるということがある。青梅のハローワークの特徴として、就職した方のデータが資料の就業地の分布と似ていて、7割が地元管内の就業場所で働いている。都内の他の地域より割合が高いことから市内に住んでもらえれば、市内で働く確率が高いのではと思う。</p> <p>次の計画策定においても皆さんに考えてもらいたいが、今の傾向を変えるのは中々難しい。4年経ってもほとんど同じ傾向。劇的な変化を求めるならそれなりのことをしなくちゃいけない。</p>
会長	<p>KPIの数字の取り方や目標値に無理があるのではないか。実態と離れてしまっているような気がする。</p> <p>人口減少は止まらないが、緩やかな減少が青梅にとって本当に悪いかどうかはわからない。</p>
委員	施設には都心から通っている人もいて、施設の働き方が自分に合えば少し遠くでも働いている。個人の希望に合った働き方の出来る施設は定着率がいい。

委員	<p>青梅線の青梅・奥多摩間がアドベンチャーラインになり、先日の多摩川フォーラムにてJRのPR活動をしている方の話を聞く機会があった。</p> <p>アドベンチャーラインを観光路線という定義で、誰が来るか調べたら、中央線沿線が最も多かったとのこと。</p> <p>統計をみると人間にとって路線はとても大きなものだとわかる。</p>
委員	<p>青梅市の女性の就業の種類がわかれば、ニーズが浮かび上がってくるかもしれない。</p>
事務局	<p>国勢調査の中で、男女別年齢別の就業種別データがあるか調査をしていきたい。</p>
会長	<p>住宅の状況では、住宅は増えている。家が増えても人口が増えないのは、空き家が増えているということか。</p>
委員	<p>世帯数は減っているか。</p>
事務局	<p>世帯数は増えているが、反対に1世帯当たりの人数は減る傾向にある。</p>
会長	<p>4年経って、人口はほぼ推計どおりに推移している。だからといって4年間やってきたことが無駄ということではない。人口は減っていくが、こういうところが増えるとか、こういうことを充実させていくとか、こつこつやっていく方がいいのでは。そういうことが反映されるようなKPIにしたらどうか。一生懸命やったことが出てくる数字にしたほうがよい。</p>
事務局	<p>(2)イ 青梅市人口ビジョンの今後の方向性について (青梅市人口ビジョンの今後の方向性について、資料3-1、3-2を用いて説明)</p>
会長	<p>「青梅市人口ビジョンの今後の方向性について」について事務局から説明があった。御発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>都会に住んでいても、いずれ田舎に住みたいと思っている人はいるので、そういう人に来てもらいたい。</p> <p>その場合、どこに住んでいる人が来てくれるかという、中央線沿線でもっと田舎に住みたいという人が来る可能性が高い。</p> <p>逆に東京の埼玉県寄りに住んでいる人で、田舎に住みたい人は、埼玉に行く</p>

	<p>思う。</p> <p>中央線沿線に住んでいる人の意向やライフスタイルを考えてもらい、自然環境が良いところという願望があるなら、身近なイメージとして湧く青梅へ来てくださいというのが自然かと思う。</p> <p>子育て世代に来てほしいということだが、ある会社で若い人が来ない、定着しないということから、専門のアドバイザーに話を聞いたら、トップを若い人にしたらどうかとアドバイスを受けた。それで社長を交代したら、若い人が来るようになったということがある。</p> <p>若い人が働きたい環境は、若い人の方が理解している。</p> <p>なので、若い人を呼びたかったら、リーダーシップや全体の仕組みを考える人を若返らせると効果的かもしれない。</p>
委員	<p>働く場所の支援を行っているが、地方に行くときの心配事で多いのは、仕事、生活の利便性、そして交通が不安と聞く。</p> <p>青梅に4月から着任しているが、お店はたくさんあり、さほど不便は無いのではないかと感じる。</p> <p>あとはいい仕事が見つければいい。</p> <p>子育て世代の方で、「青梅に住んでいてよかった」という発信があると、青梅を調べてみようという人が出てくるのでは。今住んでる人の満足度が上がっているという統計があるとアピールできるのではないか。</p> <p>交通については車を利用すればさほど不便ではないし、高速道路もつながっている。そういう意味では不便さはあまりない。</p>
会長	<p>住んで良かったということの資料があればいい。</p> <p>ツイッターとかがあるが、絶大な効果がある。</p>
委員	<p>商工会議所では起業支援を行っている。起業したい人を呼び込もうとすると、若くて創造性のある人が来てくれる可能性がある。</p> <p>創業・起業へのサポートを手厚くしてもらえると雇用の創生につながると思う。</p>
委員	<p>起業するのは若い人か。</p>
会長	<p>若い人とは限らない。</p> <p>仕事を卒業した人が、起業することもある。</p>
委員	<p>海外や都内では、シェアオフィスなどで創業する若い起業家達を支援するというのがある。パソコンがあれば何でもできてしまうので、青梅市での起業もできるのだと思う。</p>

委員	<p>聞いた話だが、トランプ大統領になった時に、「とんでもない大統領だ」と言われていたが、最近「大した人ではないか」と評価されている。</p> <p>今までの政治手法と全く違うやり方ですすめている。</p> <p>トランプ大統領がやっているのはどうやって市民に伝えているかについてだが、これがとても重要。</p> <p>市側または我々から、市民に興味を持ってもらえる手法がない。</p> <p>トランプ大統領はツイッターを使って、こういう問題が起きているが俺はこう思うと発信する。会議室で話していても、国民は誰も気がつかない。だから煽ってしまう。そうすると国民は考える。</p> <p>要はどうやって市民を巻き込むか。</p> <p>市民の興味を煽って、一つのエネルギーを創出して問題を解決していくというやりかた。</p> <p>市民に重要な問題であるという認識を持ってもらわないと誰も考えてくれない。会議室で考えていても中々難しい。</p>
事務局	<p>ア 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証 (青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について、資料4～6を用いて説明)</p>
会長	<p>続けて「イ 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の方向性について」の説明もお願いしたい。</p>
事務局	<p>(青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の方向性について、資料7を用いて説明)</p>
会長	<p>「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について」および「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の方向性について」について事務局から説明があった。事業の見直しの必要性や、KPIがこのままでよいかなど御意見を伺いたい。</p>
委員	<p>自治会加入率の件があるが、システム自体を変えないと難しい。</p> <p>若い人が自治会長になって、自分たちのまちをこうしようよと言えば、協力する人が出てくるかもしれない。</p> <p>とはいっても若い人を自治会長にできるかという、若い人はそれどころじゃない。</p> <p>青梅市からの情報を流したり指示を守らしたりでは自治にならないので、自分の地域の自治をするという意気込みや覚悟を持ち、自治を貫く人が自治会をすれ</p>

	<p>ば変わってくると思うが、現実的にはとても難しい。</p>
会長	<p>資料6の基本目標3に、時代に合った都市機能の充実とあるが、JR青梅線の乗降客とかの数字はそのままでよいか。乗降客が増えれば充実なのか、そうではない捉え方もあるのではないか。</p>
委員	<p>ツイッターのフォロワー数というのもある。</p>
会長	<p>この辺の数字などは見直してもらうとか、捉え方などもうちょっと違うやり方があるのではないか。</p> <p>待機児童は4人となっている。ゼロではないが、ほぼ合格なのではないか。</p>
委員	<p>委員が話したようにツイッターなどを活用する手法は良くも悪くもみんなを引き付ける。青梅市も、子どもを産み育てたいとか、起業したいとか、そこに特徴があることや、他の市町村にないことをやるとか、他の市町村がやる前にやるとかできないかなど。</p> <p>子どもが就業するまでの医療費を無料にするとか、婚姻届をオリジナリティあるものにするとか、よそでやっていないことができないかなどと思う。</p> <p>職員のポロシャツもいい。市のキャラクターなどももっとアピールしていいのではないか。</p>
委員	<p>今、世の中がスピード感を持って変わっている。全てのレジ袋を有償化するとか、茨城県では同性パートナーシップを始めるとか、社会の変化にスピード感をもって対応していかないと青梅が遅れてしまう。ラジカルに変えるのは難しいかもしれないが、後手に回らないように考えてほしい。</p>
委員	<p>ここから都内へ通勤している人がいるが、青梅特急みたいなものが朝1本ある。秩父は特急が朝1時間に3本くらいある。</p> <p>青梅から電車1本で新宿まで4、50分で行けるといって、かなり利便性が上がるのではないか。</p> <p>空家の活用事例が少ないが、空き家を活用すれば、ここから都心に通えるイメージもできるのではないか。どういう人を空き家に入れたいかはっきりした方がいいような気がする。</p>
会長	<p>本日の協議事項は、以上とさせていただきます。</p> <p>本日発言のあった点については、現行の総合戦略の検証および次期戦略の策定に向け、事務局にて対応をお願いします。</p> <p>最後にその他について何かあればお願いしたい。</p>

事務局	次回の青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会は、7月31日水曜日の午前10時から。本日と同じ、この市役所403会議室で開催するので、委員の方々、御出席をお願いしたい。
会長	以上で本日の議事はすべて終了した。 以上をもって、令和元年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。  (閉会)